



夢に生かさん

Takeokadai High School
 進路指導部 **3年生用** 第6号
 発行日 R6. 1.15(月)

前期試験(2/25)まで

あと**41日**

中期試験(3/8)まで

あと**53日**

後期試験(3/12)まで

あと**57日**

卒業式(3/1)まで
あと**46日**

大学入学共通テストが終了しました。自己採点の結果はどうかあれ、今最も大切なことは“**気持ちの切り替え**”です。2次試験に向けて**新たに強い気持ちを作り、少しでも早く準備を始めましょう**。そして、今週末までに戻ってくる自己採点結果を**冷静に受け止めて、的確な出願をしましょう**。

○自己採点結果の基本的な受け止め方～国公立大学の出願のポイントはこちら!!～



① 目標通りに得点できた場合

目標点が取れて(900点満点換算で目標点±20点程度)、合格可能性がA・B判定あるいは50%以上の場合は、第一志望校の出願に向けて準備しましょう。

② 目標よりかなり多く得点できた場合

予想よりも40点ほど上回ると、安易に志望校をランクアップする人も出てきますが、その場合、2次科目の学力不足で不合格になるケースもあるので要注意です。共通テストで良い点を取った人は、2次での逆転を狙う人たちから追われる側になるため、油断せずにこれまで同様に努力を積み重ねていくことが必要となります。

志望校をランクアップさせる時は、2次の科目・配点と自分の実力のバランスをしっかりと見極め、担任の先生とよく相談しながら出願先を決めましょう。

③ 予想外に低く、目標点を下回った場合

合格可能性がC・D判定あるいは30%以下の場合は注意してください。2次の配点が高い大学・学部ならば、ある程度は挽回が可能です。2次力に自信があれば、2次の配点比率が高い大学・学部を選ぶのも選択肢の一つでしょう。2次で逆転するために、まずは合格者平均点に到達することを目標としましょう。

ただし、前年に倍率が大幅ダウンした大学・学部は、前年の反動で志願者が集中し、予想に反して競争が激化する可能性もあるため、注意が必要です。

【ポイント】

○過去3年の合否状況を見て、自分の得点で合格者・不合格者が何人出ているかを確認しましょう。

○中・後期試験は粘った人にチャンスあり



中・後期試験は、前期合格者や私立大学合格者の欠席等が多くなるため、出願時の倍率よりも実際の倍率が大幅に下がります。そのため、D・E判定から合格するケースも決して少なくありません。

「早く受験から解放されたい」という気持ちから、出願しなかったり、受験に行かなかったりするのはいけません。前期試験終了から後期試験までの期間は2週間程度。せっかくここまで頑張ってきた自分に自信をもって、最後までやり抜きましょう。

○強い意志と高レベルの得意科目があれば逆転可能 ～2次で逆転できる受験生の特徴～

① 志望校に対する強い意志

「必ずこの大学に入る」という強い意志は必要条件です。加えて、共通テストの結果を引きずらず、2次試験対策に集中する切り替えの早さが必要となります。

② ハイレベルの得意科目がある

絶対の自信を持つ得意科目がある人は強いです。その科目の配点が高ければ2次逆転のチャンスは広がります。また、共通テストの準備のように不得意科目を意識することなく、2次に向けて得意科目を集中的に勉強できるため、今からの1ヶ月で学力が飛躍的にアップする可能性があります。

④ 思考力・論理力重視の記述試験が得意

共通テストのようなスピードを要求される試験より、じっくり考えさせる試験のほうが得意で、論理構成のしっかりした答案を作れる人は、2次で真価を発揮し高得点を取れます。ただし、各大学の出題傾向にもよるので、必ず事前に過去問を解いてみましょう。

○2次試験へ向けた学習のポイント「出題傾向に合わせて入念に対策を練ろう！」

英語 文系・理系ともに合否に大きく関わるキー科目。語彙・文法・構文など基礎知識の定着を再度徹底しながら、長文には毎日取り組み、設問の傾向やプロセスをその都度丁寧に復習しましょう。英作文は大学により出題形式が大きく異なるので、志望校の出題傾向をあらかじめ把握した上で、答案作成の練習を積んでいきましょう。

数学

- ① (答)が出るまでのプロセスを丁寧に記述し、他者が理解できる解答を目指しましょう。
- ② 最終的な(答)が出せなくても粘り強く考え続け、手が進むところまでしっかり記述し、部分点を狙いましょう。
- ③ 条件の見落としや記入漏れで点を失わないような答案づくりを心がけましょう。
- ④ 共通テストとは異なり、時間的に余裕があります。丁寧に正確な計算に努めましょう。

国語 漢字や古文単語、文法・句法などの基本的な知識問題は絶対に取りこぼすことができません。共通テスト対策同様、毎日コツコツ取り組みましょう。記述の説明問題は今からの練習量次第で大きく得点を伸ばせます。“根拠を持って”解答をまとめる練習をしましょう。

理科 まずは基礎分野の復習に取りかかりましょう。まだ選択科目が絞れていない人は、過去問を解いて早めに決めましょう。大学によって出題範囲が異なる(出題されない範囲がある)ので、出願校が決まったら範囲などの注意事項を確認することも忘れずに。計算過程の記述や字数制限の論述の対策が必要となります。

地歴公 2次試験は論述問題中心となります。決められた字数で、ポイントを押さえて正確に表現できるかが勝負となります。

小論文 小論文の出題形式には様々なタイプがあるので、志望校の過去問で出題傾向を十分に研究しておきましょう。国語力(または英語力)や論理展開力に加え、学部・学科の専門分野に関連する科目(地歴・公民・理科など)の総合的な基礎学力が試されます。

○私立大学および短期大学の受験

私立大学や短期大学の一般入試については、学校ごとに出題傾向が大きく異なります。自分の受験先の過去問をしっかりと分析したうえで、効率よく学習を進めていきましょう。

